

法人パソコン 購入術

失敗しないPCのカスタマイズ購入

会社で使用するパソコンは、メーカー製の法人用パソコンがほとんどだと思います。法人用のパソコンはメーカーのホームページでカスタマイズが可能です。でもパソコンのスペックの見方などが解らないとどれを選択すれば良いのかちんぷんかんぷん。届いたパソコンを使用したら、出来なかった事が出来なかったり…。そんな事がないように、カスタマイズの選択方法をご紹介します。

ビジネス用PCと家庭用PCはここが違う！

メーカー製のパソコンには**家庭用**と**法人用**が用意されています。家庭用はTVCMや家電量販店でみなさんも目にしていただいていると思います。法人用は、メーカーのホームページから注文します。注文時はベースモデルを元にOSやメモリ、HDDの容量、DVDドライブやOfficeソフトの有無などを選択します。いわゆる**カスタマイズ**です。

法人用パソコンには家庭用パソコンのようにたくさんのプリインストールソフトは付きませんが、家庭用パソコンと同等のハードスペックにすると、それなりの価格になります。

その理由は使用する部品にあります。**VALUESTAR Mate**最新の部品より、**実績のある信頼性のある部品**を使用して組み立てます。だから、メーカー保証も家庭用が1年間なのに対して、**法人用は3年間に延長しているモデル**もあります。あまり知られていませんが、**法人用パソコンでは今でもWindowsXPのパソコンが購入できます**。



バックアップならマルチドライブでOK

法人用パソコンのカスタマイズではCDドライブ、DVDドライブの選択が出来ます。**カスタマイズのベースモデルは、価格の安いCD-ROMやDVD-ROMになっていることが多いので、必要なDVDドライブを選択し直しましょう。**DVDドライブには次の呼び方があります。

コンボドライブ	CD-ROM CD-R/RW DVD-ROM
マルチドライブ	CD-ROM CD-R/RW DVD-ROM DVD-R/RW DVD-RAM
スーパーマルチドライブ	CD-ROM CD-R/RW DVD-ROM DVD-R/RW DVD-RAM DVD+R/RW

元々パソコン向けの規格である**DVD-RAMは、ファイルのバックアップに最適**です。ハードディスクのように扱えますので、ファイルやフォルダをドラッグアンドドロップでコピー・削除ができます。DVD-Rのように書き込みのためのソフトもありません。

ディスプレイは「なし」

カスタマイズでの**ディスプレイは、割高に設定されています**。17型の液晶ディスプレイでは、市場価格より1万円ほど高くなります。カスタマイズでは「なし」を選択して、別に購入する事をお勧めします。

大容量HDDは失うデータも大容量

ビジネスで使用するパソコンに大容量の**ハードディスク**は必要ありません。大切なファイルはサーバに保存したり、CD-RやDVD-Rに焼いて保存すればよく、個々のパソコンに保存するべきではないからです。もし、大容量のハードディスクが壊れたら、失うデータも大容量になります。**リスク回避**の観点からも、ビジネス用のパソコンでは大容量のハードディスクは使うべきではありません。そう考えれば仕事で使用するパソコンのHDDは**40GBや80GBもあれば十分**です。カスタマイズの選択肢に160GBや320GBのHDDがあっても無視して構いません。どうしてもHDDの容量が足らなくなったら、外付けHDDを付ければ良いのです。



メモリの容量はOSで決める

メモリの容量は512MB～2GBぐらいの間から選択できます。多いのに越した事はありますが、**WindowsXP**でWordやExcel、メールとインターネットぐらいしかパソコンを使わないのなら512MBでも大丈夫です。ところが**Vista**の場合はそうはいきません。**Vista Businessでも最低1GBは必要、Vista Home Premiumだと起動しているだけで1GBのメモリを消費する事もありますので2GBは必要**です。

カスタマイズでは同じ1GBでも「1GB×1」と「512MB×2」を選択できます。購入後にメモリを増設する予定が無い場合は「512MB×2」を選択しましょう。今のメモリは**同じ容量なら1枚より2枚の方が処理速度が速い**のです。



同じ容量のメモリ2枚を選択しましょう。

事務処理ならセレロンにお任せ！

パソコンの頭脳である**CPU**は、購入後の交換は簡単にはできませんので、慎重に選びたいところです。**CPUは高速であればあるほど良い**のですが、Officeを使った**事務処理だけなら「セレロン」でも十分**です。将来画像や映像の処理を行う予定がないのなら最新の「Core2Duo」を選択する必要はありません。「セレロン」や「Pentium4」を選択しても大丈夫です。



地デジとパソコン

仕事で地上デジタル放送のデータをパソコンで扱うことは無いと思いますが、自宅ではあるかも知れませんね。DVDレコーダーで録画したDVDをパソコンで視聴するための基礎知識をご紹介します。

地上デジタル放送などのデジタル放送の録画には「**CPRM**」と呼ばれるコピー制御方式が使われます。コピーワンス(1回だけコピーが可能)やダビング10(9回のコピーと1回の移動)を可能にする仕組みです。地上デジタル放送を録画する時はこの「CPRM」に対応したDVD-RやDVD-RAMなどを使わなければなりません。対応するDVD-Rなどのパッケージには上のマークが付いていないので、みなさんも見た事があると思います。DVDの記録形式には**Video形式**と**VR形式**の2つがありますが、「CPRM」に対応しているのはVR形式のみです。録画はVR形式となります。



地上デジタル放送を録画したDVDをパソコンで視聴する場合は、まず、**VR形式の再生が可能ドライブ**なのかを確認して下さい。可能であれば、次に**再生ソフトが「CPRM」対応**かを確認します。パソコン購入時にプリインストールされているDVD再生ソフトの場合「CPRM」に対応していない場合が多いので、正式版(有料製品版)へのアップグレードが必要な場合もあります。

ちなみに「CPRM」で記録されたDVDは「**WindowsMediaPlayer**」では再生は出来ません。

地上デジタル放送をDVDに録画すると、フルハイビジョンの**HD画質(1920×1080)**の映像でもDVD規格の**SD画質(720×480)**になってしまいます。DVDに録画したハイビジョン映像は、ハイビジョンテレビで再生するとちょっとぼやけた感じになります。地上デジタル放送をハイビジョン画質のまま録画するには**ブルーレイ**が必要です。

まだドライブを搭載したパソコンは少ないですが、**ブルーレイディスク**は更に敷居が高くなります。ブルーレイディスクの高画質を活かすにはパソコンとディスプレイをデジタル接続(**DVI**や**HDMI**ケーブル)しますが、「**HDCP**」に対応したディスプレイでないと表示されません。アナログ接続(D-Sub15ピン)では表示できません。ブルーレイディスク本来の高画質な表示はできません。



開発室から

我が家で使用していたNASの冷却ファンが動かなくなり、保護機能が働いて、電源が切れてしまいました。電源を入れなおしてファンを手で回してやると、クルリクルリと弱々しく回り、電源も入ったままだったので、中のファイルすべて別のハードディスクに移動しました。問題はNASに接続して使用していたUSB接続のハードディスクです。専用フォーマットだったのでNASに接続しないとファイルが見えません。NASの修理完了まで使えない状態です。